

「飼料用米の多収穫栽培のポイント」

1 はじめに

県では、平成30年に向け、業務用米等多様な米づくりの推進により生産者所得の最大化を図るため、多収穫・コスト低減対策などの取組を支援しています。

そこで、今回は飼料用米の栽培管理について多収性品種「新潟次郎」と「いただき」の平成28年度の実証ほ成績とあわせてご紹介します。

2 平成28年の実証ほ成績

(1) 新潟次郎

- ・実証ほ9地点の平均収量は741kg/10aで、うち6地点が配分単収プラス150kg以上を確保しました(図1)。

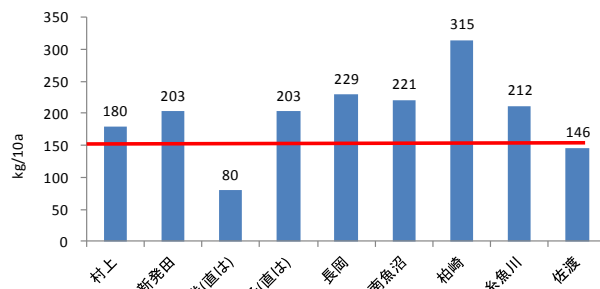


図1 「新潟次郎」実収量の配分単収差

(2) いただき

- ・実証ほ3地点の平均収量は687kg/10aで、1地点が配分単収プラス150kg以上を確保しました(図2)。

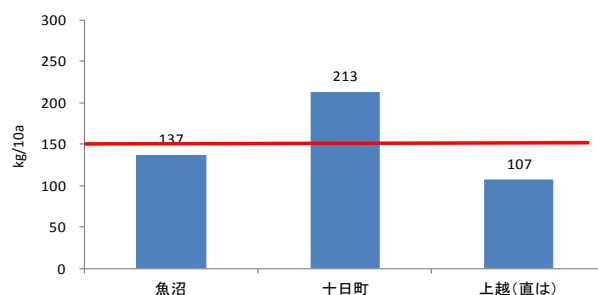


図2 「いただき」実収量の配分単収差

3 栽培管理のポイント

(1) 土づくりの実施

○飼料用米品種の多収栽培時には主食用米に比べ養分吸収量が多いので、稲わらの秋すき込みや土づくり資材等の施用を積極的に実施しましょう。(表1)

- ・稲わらをすき込むと、加里・ケイ酸・窒素がほぼ維持される(図3)。

表1 飼料用米品種および主食用米品種の収量および養分吸収量

(単位: Kg/10a)

品種 ^{*1}	部位	収量	養分吸収量					
			窒素	リン酸	加里	石灰	苦土	ケイ酸
北陸193号 (H24~H26)	地上部全体	1,971	15.2	8.3	24.6	4.6	3.5	82.8
	わら	1,044	6.4	3.4	21.8	4.2	2.1	65.3
	籾	927	8.8	5.0	2.8	0.4	1.5	19.9
ハツシモ岐阜SL (H24)	地上部全体	1,287	10.3	4.8	15.3	3.2	1.6	69.3
	わら	645	3.9	1.5	12.9	3.0	0.8	55.9
	籾	641	6.4	3.2	2.4	0.2	0.8	13.5

*1: 北陸193号は窒素施肥量16kg/10a、ハツシモ岐阜SLは窒素施肥量8kg/10aにて栽培した結果

*2: 北陸193号はH24~H26の平均値

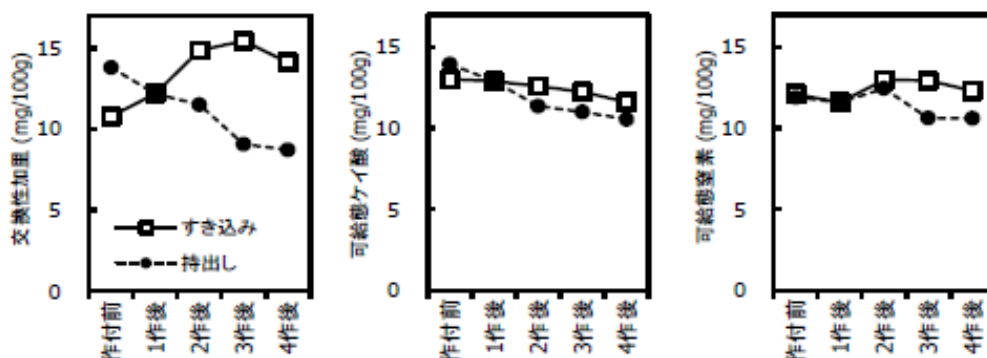


図3 飼料用米栽培で異なるわら処理を継続した場合の土壤養分の推移(左:交換性加里、中:可給態ケイ酸(リン酸緩衝液(pH6.2)抽出法)、右:可給態窒素(風乾土 30°C4週培養))

*1: 1, 2作は「クサノホシ」、3, 4作は「北陸193号」を栽培

*2: 「すき込み」では収穫後のわらの全量すき込みを継続し、「持出し」では収穫後のわらの全量持出しを継続

(岐阜県作物研究センター)

(2) 適正な施肥量の確保

- 基肥は、過不足無く適正な施肥量を施用しましょう。特に全量基肥施肥では、ほ場の地力等を勘案し、設定しましょう。
 - 穂肥も過不足がないように適量を施用しましょう。特に、収数確保のため、1回目の穂肥は遅れずに施用しましょう。
- また、葉色を維持するため、追加の穂肥・実肥を必要に応じて施用しましょう。

表2 基肥のめやす

品種	基肥窒素施用量 (kg/10a)
新潟次郎	7.0
いただき	6.0～7.0

表3 穂肥のめやす

品種	穂肥1回目(窒素)		穂肥2回目(窒素)	
	施用時期 (出穂前日数)	施用量 (kg/10a)	施用時期 (出穂前日数)	施用量 (kg/10a)
新潟次郎	25～23日	3.0	14日	3.0
いただき	25～23日	3.0	14日	3.0

(3) 適期の田植え及び適正な栽植密度の確保

- 田植えは、新潟次郎は5月上旬、いただきでは5月中旬をめやすに行いましょう。
- 栽植密度は、「新潟次郎」は㎡当たり18株(60株セット)以上、「いただき」は㎡当たり15～18株(50～60株セット)をめやすとしましょう。

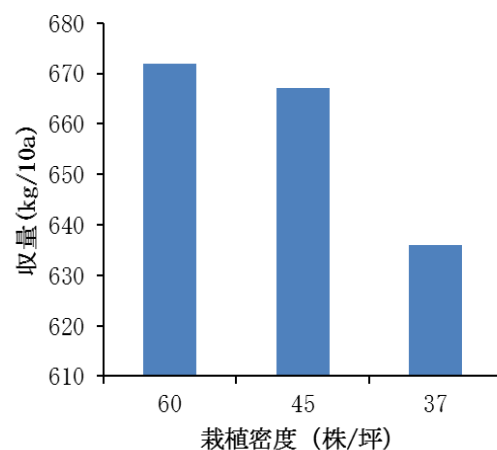


図4 栽植密度と収量の関係

(作研、新潟次郎、H22・23年平均)

(4) 防除の徹底

- 多収穫栽培は窒素施肥量が多いため、いもち病が多発生しやすくなります。葉いもち防除は必ず育苗箱施用により行い、穂いもち防除は、予防防除を行いましょう。

(5) 適期収穫の実施

- 収穫適期は黄化粳割合が85～90%くらいになった頃で、「新潟次郎」は出穂後の積算温度で1,000℃、「いただき」は、1,000～1,050℃がめやすです。
- 特に、刈り遅れによる発芽粒の発生に注意しましょう。

表4 穂発芽性

新潟次郎	中
いただき	難

- ・検査規格の等級区分は、「合格」と「規格外」の2区分で、「水分」、「被害粒(発芽粒、病害粒、(芽)くされ粒)」、「異種穀粒」、「異物」の混入限度が規定されています。
- ・稲こうじ病菌、稲墨黒穂病等の損傷を受けているものは規格外です(汚損扱い)。

4 おわりに

飼料用米に取り組む皆さんが、多収穫栽培のポイントをしっかりと実践することにより、目標収量を確保して最大の収入をあげて頂くことを期待します。

【経営普及課 農業革新支援担当(作物) 石山 誠一】